

ていぼう いまの堤防は、いつごろつくられたんだろう？

広い川はばと横堤

明治になっても、荒川の中流部や下流部では、たびたび洪水災害におそわれました。

そこで、それまでの、人の住むところを堤防で囲むのとは逆に、川全体を堤防のなかに閉じこめる、連続堤防の建設が大正7年から昭和29年にかけて行

われました。

そのときにも、洪水のいきおいを弱めることが求められたので、川はばは、大変に広くとられました。その効果を、さらに高めるため、洪水を受けとめる横堤という、全国でもめずらしい堤防がつけられました。

明治以降、最大のひ害を出した

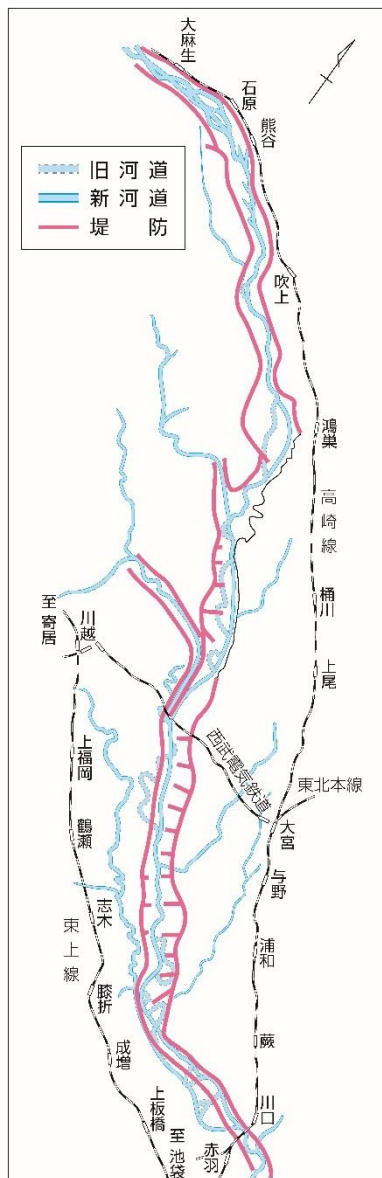
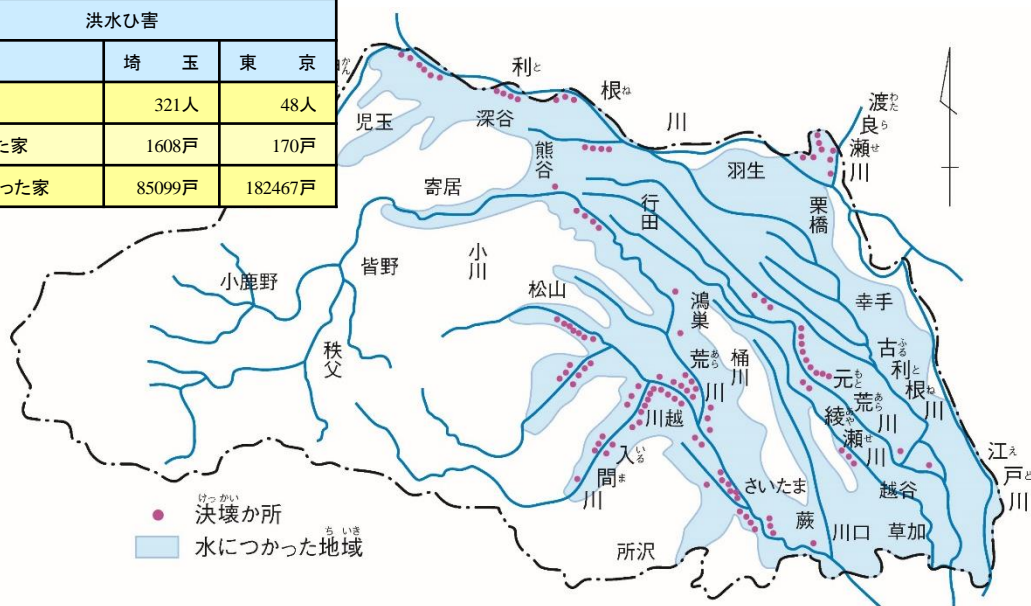
明治43年の洪水

この年の洪水は、長雨のあとに台風が上陸し、川の水が増えたために起こったもので、死者・ゆくえ不明者数は370人近くにもなりました。この洪水が、きっかけとなり、連続堤防の建設が始められました。



洪水のようす(川越市)

洪水ひ害		
	埼玉	東京
死んだ人	321人	48人
こわされた家	1608戸	170戸
水につかった家	85099戸	182467戸



荒川上流の改修計画(昭和2年)

堤防の建設

堤防の建設には、外国からもたらされたじょう気機関車が活やくしました。



馬宮付近の堤防建設のようす(さいたま市)
画像提供:馬宮西小学校

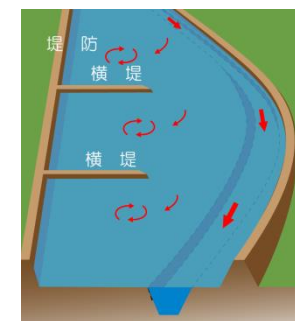
横堤の建設

横堤のしくみ:洪水を受けとめて流れをゆるやかにします

ふだんの時:横堤のある高水敷は田んぼです



洪水の時:高水敷いっぱいになり水が流れています



川の豆知識 移転された家

川はばの広い荒川をつくるために、多くの家が移転することになりました。戸田市にある、道満グリーンパークのあたりも人家があったところでした。



道満グリーンパーク